

まちづくり観光を目指して



その昔は…

「それは、山々の屏風^{びようぶ}で、大切そうに囲われた、陽に輝く盆地であった。一筋の河が野の中を紆^{めぐ}り、河下に二本の橋があり、その片側に、銀の鱗^{うろこ}を列べたように、人家の屋根が連なっていた。いかにも、それは別天地であった。あの険しい、長い峠を防壁にして、安全と幸福を求める人々が、その昔、ここに居を卜^{ぼく}した—そういう感じが、溢^{あふ}れていた。」

岩松を紹介するとき先ず使うこの文章は、獅子文六が大衆小説「てんやわんや」の中でしたためたものです。

宇和島市津島町岩松地区は江戸末期以降、豪商・小西家によって繁栄がもたらされ、明治・大正期にかけて隆盛を極めました。かつて狭い地区内に三つの蔵元が軒を連ねる「酒どころ」であったことから、その栄華がうかがえます。昭和40年代までは商店街としても栄えましたが、モーターゼーションの進行とともに



岩松町並み保存会 代表

兵頭 肇
(宇和島市津島町)

に道路事情が（多少ですが）改善され経済圏が広がったことや、人口の減少、生活（消費）スタイルの変化に起因する旧来の商売とのギャップなどにより商業地としての役割を終え、多くのハンディキャップを持つ地域になってしまいました。

再スタート

そうした状況の中、昭和初期の面影を残すその佇まいを歴史的環境資源ととらえ、「美しいまち」として再スタートをきろうと、平成15年に行政と住民が立ち上がり、平成17年には地域住民有志8名で「岩松町並み保存会」を設立しました。（会員は現在も8名。）

町並み保存会では、岩松の中心に残る最大の建造物群「西村酒造場を中心に、地区全体を舞台として様々なイベントや学習会を開催するようになりました。その酒蔵を含む酒造関連部分が市に寄付されたことが、町並み保存会の活動を後押ししました。

現在、活動4年目に入り、地域住民の認知も得られるようになりました。会の活動の目的は、住んでいて心地よい地域にするための手助けをすること。そのためには、これまでの地域コミュニティ

■津島郷、岩松のどぶろく「なっそ」ブログ <http://nasso.exblog.jp/>



棚田での田植え —どぶろくの原料となる—

を再構築することが必要と思っ
ています。さらには、会の活動の大きな目標に「岩松地区の重要伝統的建造物群保存地区選定」があります。伝建制度を手段とすることで自分たちの地域に誇りを持てれば良いと考え、その学習や住民への啓発を行政と共に進めています。

そんな中、地域に賑わいをもたらす手段として「どぶろく造り」も始めました。昨年一年がかりで、苦勞の末に酒造免許をいただいたのです。その間に、いろいろな手続きや許認可をクリアしたことで自信もできました。また、来訪者に地域

を案内するときに、自らが汗してつくったものを紹介し、訪れていただいた皆さんに喜んでもらえることの楽しさを感じています。「どぶろく」が、地域に目を向けていただくためのツールとして機能している実感します。

これから

そんな町並み保存会が、外からのお客様をもてなすようなイベントをこれまで何度か手がけたことがあります。そのとき感じたのは、地元で案内できる宿、レストラン、食べ物、お土産、さらには写真に取りたくなる風景・建物がない(または知らない)ということとです。

これまで、行政は新しい施設をつくり、特産品を開発するといったいわゆる観光施策を行うことで問題を補ったつもりになっていました。住民もそれを強く望んでいました。しかし、長い歴史の中でその土地その土地で息づいている衣・食・住・風習(いわば民俗)を紹介し、それでもてなすことで大勢の人が訪れ、その地域が賑わっている全国の事例があることを知り、「まちづくり」そのものが、俗に言う観光に繋がっていくことに



毎年秋に開催される横つちよストーリー—路地を使ったフリーマーケット—

気付きました。そのためには、多くの皆さんが取り組んでいるように地域資源の再確認をすることが第一歩です。遅まきながら岩松もその作業に取り掛かっています。

11月の愛媛大会では、全国の皆さんと一緒に、これまでの「施設型観光」の現状を見て、これからの「まちづくり観光」について意見交換したいと考えています。また我々のつたないおもてなしに対し、今後のためにご意見をいただければありがたいと思っています。ぜひ岩松にお越しください。